

# 高齢者の社会性を維持する歩行補助器具の未来

転倒リスクを低減し安全を守るだけでなく、高齢者が「自らの足で移動する」楽しみを持ち、社会との関係性を維持するためのシルバーカーや杖のあり方を検証。



## 調査概要とニーズ比較

### Methodology UI



調査1: 高齢者ユーザー  
(82~95歳, 10名 / 半構造化面接)



調査2: 支える家族  
(40~70代, 25名 / 非構造化面接)

### Comparison Matrix

属性	求める機能	求めるデザイン
● 高齢者	軽量、小回り、安定性 (※重さとの葛藤あり)	シンプル、黒が主流。しかし「好みの具現化」がモチベーションに直結。
● 家族	軽量、安全に加え、コンパクト化、電動アシスト機能など「利便性」を要求。	高齢者以上に多種多様。強いオリジナリティとカスタマイズ性を要望。

## 分析インサイト

### Paradigm Shift Equation



- 情緒的価値へのシフト: 「最低限の歩行補助」という機能的価値以上に、使うことが楽しくなるデザイン性 (情緒的価値) が、外出意欲を高め社会とのつながりを維持する最大の原動力となる。
- 価値観の拡張: 支える家族の視点が加わることで、モビリティに対する利便性とデザインの多様性ニーズがさらに拡張されることが判明。

【結論】 専門家や家族主導による「限られた既製品からの選択」から、個人の嗜好性を完全に満たす時代へ。今後は、個々の用途と好みに最適化された「セミオーダー・フルオーダー品」の実用化が、高齢者の行動範囲を広げ、社会性維持の鍵となる。